

第1回庄原市立学校のあり方を考える会 会議録(概要)

日時 令和8年7月27日(月)9時55分～12時

場所 庄原自治振興センター多目的ホール

【出席者】

(委員) 小原委員、宮本委員、福嶋委員、倉田委員、藤原委員
早川委員、熊原委員、榊原委員、塩本委員

(事務局) 牧原教育長、下森教育部長、森田教育総務課長、高淵教育指導課長
天野総務係長、田辺学校管理係長、赤木学事係長、伊澤指導係長
藤岡主任主事、山本主事

[欠席] 住岡田委員、森多委員、堀委員

(9時55分開会)

1. 開会

～事務局進行(教育総務課長)、教育長挨拶

2. 出席者自己紹介

3. 会長・職務代理者選出

～互選により榊原委員が会長に選出

～進行役を事務局から議長(会長)に交代

～会長職務代理者に小原委員を指名

※本題の前に会議及び会議録の公開について、「本会は原則公開とし、本会の
会議録は原則発言された委員名は伏せた上で概要のみ公開とする」ことを決定

4. 庄原市の現状と取り組みについて

～「子供たちに夢と希望を」というテーマで、本市の学校教育を中心に説明(教育長)

5. 説明(※資料1～資料6)

(1) 庄原市立学校のあり方の検討について

～趣旨、現状と経過、検討事項、進め方等について説明(教育総務課長)

(2) 質疑応答

～特になし

6. 意見交換

7. 今後のスケジュールについて

～毎月1回開催(全5～6回)。次回は8月下旬を予定(教育総務課長)

8. その他

9. 閉会

	6. 意見交換
会長	続いて「6. 意見交換」に移ります。意見交換のテーマについて、事務局から提案はありますか。
教育総務課長	それでは、事務局から意見交換のテーマを提案いたします。 まず、1つめのテーマとして「庄原市の学校の良さと課題」について、次に、2つめのテーマとして「子供に付けたい力が育まれ通わせたい学校の姿」について、最後に3つめのテーマとして「今後、『学校のあり方を考える会』で議論したいこと」について、それぞれ意見交換をお願いできればと思います。
会長	事務局から意見交換のテーマを3点提案されました。各委員から、興味や関心のあるテーマについてご意見ををお願いします。
委員	保護者の立場で学校の統合を経験したことがある。当時、統合について様々な意見が出ていたが、統合後、子供は楽しそうに学校に通うようになった。また、統合先の学校の保護者と一緒に子供達のためにと協力し合い、とても良い学校になったと思う。地域からは否定的な声もあったが、保護者や児童からはそういった意見は聞いていない。現在通っている子供達や、未来の子供達のことを考えて統合について検討する必要がある。庄原市は面積が広く、通学距離が長くなることや冬期の雪道の心配も懸念される。比較的近い中学校同士で統合を進めたとしても、生徒数の状況により、近い将来、再び統合の検討を迫られる可能性が高い。そのため、思い切って旧町の中学校を庄原中学校に統合し、あわせて寮の設置を検討するのはどうか。 1人学級になってから統合を経験した人の話を聞いたことがあるが、1人だけで統合先の学校に移るのは、精神的に非常に苦しかったと言われていた。複数人の同級生がいる段階で統合を行う方が統合先の学校に馴染みやすく、子供の負担を軽減できると考えられる。 また、学校施設を整備したのに統合により使用しなくなるということにならないよう、廃校後の学校の利活用についても検討する必要があると思う。
委員	学校統廃合については、保護者、学校、地域それぞれの考えが異なるため、大きな声で議論できていないのが現状だと思う。統合のメリットとしては、人数が増えることで部活動の選択肢が増えることや、意見交換の幅が広がり、グループワークによる学習が充実することが挙げられる。一方で、通学距離に対する懸念や、部活動後の送迎の負担、いじめ等への不安、子供と地域の関係が希薄になる等の心配がある。 小学生の統合後のアンケートを見ると前向きな意見が多いものの、小学生と中学生では異なる反応が出る可能性もあるのではないかな。

委員	学校で先生方の話を聞くと、日々、子供達のために努力されていると感じるが、教員の不足が課題であるとも聞いている。若い教員が多く、経験不足が課題であるとも言われている。 近年は地域の人と先生方が互いに面識がなく、地域と学校の繋がりが薄れていると感じられる。庄原市の強みは自然体験にあると考える。すべてを学校に任せるのではなく、保護者や地域も当事者意識を持ち、連携を図っていくことが望ましいと考える。 また、統合後に廃校になった学校施設の利活用の状況についても気になっている。
委員	単純に考えると、子供が減るとその分厚くサポートされるようになると思われやすいが、実際にはそうではない。複式学級になることで教員の人数も減少し、学校現場は厳しい状況となってしまう。そのため、教員の人数を減らさない方向で動けるといい。
委員	赴任先で学校の統合を経験したが、子供達は慣れるのが早く、小規模校から統合した児童も大人数の中で頑張って学校生活を送っている。子供達の声としては、「友達が増えた」、「たくさんの意見を聞くことができるようになり、自分の意見が深まった」、「団体スポーツができるようになり、そこからスポーツ少年団に加入することに繋がった」などがある。また、前に出るタイプではなかった子が統合後の学校で児童会役員に立候補し、保護者が驚くこともあった。一方で、統合によって1人のクラスから30人のクラスの中に入ることとなった児童もあり、上手に学校生活を送っているとは思いますが、時にはしんどそうだなと思う面もある。これまで出会ったことのないタイプの友達ができたことにより衝突や混乱が生じ、話し合いに発展する出来事もあったが、これも子供の成長に繋がっていると感じている。統合前の学校での遊びを紹介して一緒に遊ぶなど、統合先の子供達の刺激にもつながっている。
委員	「4. 庄原市の現状と取り組みについて」の中で説明された写真を見ると、子供達は非常によい笑顔をしており、現状の教育体制のままでよいのではないかと感じられるかもしれないが、未来の子供達のことを考えると、インフラ整備も含めて、今後の庄原市立学校のあり方を検討する必要があると思う。 先ほど、庄原中学校への寮の設置についての話があったが、寮のある中学校に赴任していたことがある。体感としては、中学生は高校生の5倍は手がかかると思う。
委員	近年、個人情報保護の観点からか、会議等に地域の人が呼ばれなくなり、地域と学校がどのように関わっていくべきかが問われている。コロナ禍の影響により地域との関わりが薄れ、運動会も午前中のみで開催と

委員	なり、地域が参加するプログラムもなくなった。また、その他の学校行事への関わりも減少しているが、登下校の見守り活動などを通じて子供達と関わり、身近な存在と感じられるよう取り組んでいる。 先ほど寮の話があったが、自分も寮生活を送った経験がある。実体験として、親元から離れて寂しさを感じることもあったものの、共同生活の中で、それ以上に得るものも大きかった。 「５．説明」の中で、事務局から「バス事業者の運転手不足等により、学校を統合した場合の通学手段の確保について懸念している」との説明があった。しかし、通学手段の確保は前提条件であり、統合後の通学手段が確保できないかもしれないというのでは、統合の議論を進めることは困難である。 「４．庄原市の現状と取り組みについて」の中で、庄原市が取り組んでいる５つの心がけ「さくら習慣」（挨拶をしよう、本を読もう、履物をそろえよう、時間を守ろう、背筋を伸ばそう）についての説明があったが、「履物をそろえると心もそろえよう」という言葉があるように、履物をそろえるのは大変良いことだと思う。引き続きしっかり指導してほしい。 近年、保育所の保護者会が解散したり子供会が無くなっている地域もあったり、子供が参加する地域行事も減少し、保護者同士の情報共有が難しくなっている。保護者の立場から言うと、現在の学校の状況やこの会議のことなど、一人一人が自分で情報を得る努力をしなければ、庄原市の子供を取り巻く環境がどのような現状か、何が起きているかを知ることが難しい。保護者世代に届く情報発信の方法について工夫が必要だと考える。
委員	市外の者から見て、庄原市の良いところは、都会にはない豊かな自然だと思う。合併前の１市６町のそれぞれの地域に、「帝釈峡」や「吾妻山」や「比婆山」など、それぞれの豊かな自然がある。その７つの地域の豊かな自然を、子供達がどれだけ実際に行って見て体験しているのか気になる。小中学生のうちに、７つの地域すべての自然の良さを体験してもらいたい。そうすることで、「庄原市で暮らしていて良かった、庄原市で生まれ育って良かった」という思いに繋がると思う。そして、その子供の頃にした自然体験が、大人になった時に庄原市に戻りたいと思わせるのだと思う。子供達には、住んでいる地域に捉われず庄原市全体の自然に触れてほしい。
会長	委員の皆さんから出された意見により、次回の考える会では、「学校ごとの学級数及び教職員数の推移（推計）」、「これまでの小中学校の統合状況及び廃校施設の活用状況」、「各中学校寄宿舎の開設・閉鎖状

	況」の資料を事務局から提供いただければと思います。 委員の皆さん方から他に意見がないようであれば、本日の意見交換を終了させていただきます。ありがとうございました。
--	---